

東部第四師團	九
東部第三師團	二
東部第二師團	三
東部第一師團	四
中部第一師團	一
中部第二師團	二
中部第三師團	三
中部第四師團	四
中部第五師團	五
中部第六師團	六
中部第七師團	七
中部第八師團	八
中部第九師團	九
中部第十師團	一〇
中部第十一師團	一一
中部第十二師團	一二
中部第十三師團	一三
中部第十四師團	一四
中部第十五師團	一五
中部第十六師團	一六
中部第十七師團	一七
中部第十八師團	一八
中部第十九師團	一九
中部第二十師團	二〇
中部第二十一師團	二一
中部第二十二師團	二二
中部第二十三師團	二三
中部第二十四師團	二四
中部第二十五師團	二五
中部第二十六師團	二六
中部第二十七師團	二七
中部第二十八師團	二八
中部第二十九師團	二九
中部第三十師團	三〇
中部第三十一師團	三一
中部第三十二師團	三二
中部第三十三師團	三三
中部第三十四師團	三四
中部第三十五師團	三五
中部第三十六師團	三六
中部第三十七師團	三七
中部第三十八師團	三八
中部第三十九師團	三九
中部第四十師團	四〇
中部第四十一師團	四一
中部第四十二師團	四二
中部第四十三師團	四三
中部第四十四師團	四四
中部第四十五師團	四五
中部第四十六師團	四六
中部第四十七師團	四七
中部第四十八師團	四八
中部第四十九師團	四九
中部第五十師團	五〇
中部第五十一師團	五一
中部第五十二師團	五二
中部第五十三師團	五三
中部第五十四師團	五四
中部第五十五師團	五五
中部第五十六師團	五六
中部第五十七師團	五七
中部第五十八師團	五八
中部第五十九師團	五九
中部第六十師團	六〇
中部第六十一師團	六一
中部第六十二師團	六二
中部第六十三師團	六三
中部第六十四師團	六四
中部第六十五師團	六五
中部第六十六師團	六六
中部第六十七師團	六七
中部第六十八師團	六八
中部第六十九師團	六九
中部第七十師團	七〇
中部第七十一師團	七一
中部第七十二師團	七二
中部第七十三師團	七三
中部第七十四師團	七四
中部第七十五師團	七五
中部第七十六師團	七六
中部第七十七師團	七七
中部第七十八師團	七八
中部第七十九師團	七九
中部第八十師團	八〇
中部第八十一師團	八一
中部第八十二師團	八二
中部第八十三師團	八三
中部第八十四師團	八四
中部第八十五師團	八五
中部第八十六師團	八六
中部第八十七師團	八七
中部第八十八師團	八八
中部第八十九師團	八九
中部第九十師團	九〇
中部第九十一師團	九一
中部第九十二師團	九二
中部第九十三師團	九三
中部第九十四師團	九四
中部第九十五師團	九五
中部第九十六師團	九六
中部第九十七師團	九七
中部第九十八師團	九八
中部第九十九師團	九九
中部第一百師團	一〇〇

東部第四師團 九
東部第三師團 二
東部第二師團 三
東部第一師團 四
中部第一師團 一
中部第二師團 二
中部第三師團 三
中部第四師團 四
中部第五師團 五
中部第六師團 六
中部第七師團 七
中部第八師團 八
中部第九師團 九
中部第十師團 一〇
中部第十一師團 一一
中部第十二師團 一二
中部第十三師團 一三
中部第十四師團 一四
中部第十五師團 一五
中部第十六師團 一六
中部第十七師團 一七
中部第十八師團 一八
中部第十九師團 一九
中部第二十師團 二〇
中部第二十一師團 二一
中部第二十二師團 二二
中部第二十三師團 二三
中部第二十四師團 二四
中部第二十五師團 二五
中部第二十六師團 二六
中部第二十七師團 二七
中部第二十八師團 二八
中部第二十九師團 二九
中部第三十師團 三〇
中部第三十一師團 三一
中部第三十二師團 三二
中部第三十三師團 三三
中部第三十四師團 三四
中部第三十五師團 三五
中部第三十六師團 三六
中部第三十七師團 三七
中部第三十八師團 三八
中部第三十九師團 三九
中部第四十師團 四〇
中部第四十一師團 四一
中部第四十二師團 四二
中部第四十三師團 四三
中部第四十四師團 四四
中部第四十五師團 四五
中部第四十六師團 四六
中部第四十七師團 四七
中部第四十八師團 四八
中部第四十九師團 四九
中部第五十師團 五〇
中部第五十一師團 五一
中部第五十二師團 五二
中部第五十三師團 五三
中部第五十四師團 五四
中部第五十五師團 五五
中部第五十六師團 五六
中部第五十七師團 五七
中部第五十八師團 五八
中部第五十九師團 五九
中部第六十師團 六〇
中部第六十一師團 六一
中部第六十二師團 六二
中部第六十三師團 六三
中部第六十四師團 六四
中部第六十五師團 六五
中部第六十六師團 六六
中部第六十七師團 六七
中部第六十八師團 六八
中部第六十九師團 六九
中部第七十師團 七〇
中部第七十一師團 七一
中部第七十二師團 七二
中部第七十三師團 七三
中部第七十四師團 七四
中部第七十五師團 七五
中部第七十六師團 七六
中部第七十七師團 七七
中部第七十八師團 七八
中部第七十九師團 七九
中部第八十師團 八〇
中部第八十一師團 八一
中部第八十二師團 八二
中部第八十三師團 八三
中部第八十四師團 八四
中部第八十五師團 八五
中部第八十六師團 八六
中部第八十七師團 八七
中部第八十八師團 八八
中部第八十九師團 八九
中部第九十師團 九〇
中部第九十一師團 九一
中部第九十二師團 九二
中部第九十三師團 九三
中部第九十四師團 九四
中部第九十五師團 九五
中部第九十六師團 九六
中部第九十七師團 九七
中部第九十八師團 九八
中部第九十九師團 九九
中部第一百師團 一〇〇

其第一師團五月下旬前哈爾濱に達する
ふと之なしとするを得べし其後に至らば
我等第一師團三萬五千の割合を以て増援
兵の入着するものとあるべきを豫期せざる
べからず

露彼得堡通信員の報する所に據れば陸軍
省は昨日既に直に獨逸兵軍團及び歩兵二
箇軍團を動員するに決したるものと云ふ此獨
逸兵軍團と云ふは三箇師團より成るものと
にして其大部はモスコウに屯營し居れり
去る十二月十五日までに於ける八回の連
續的且つ部分的動員に依りて七百六十四
箇の徴兵管區中二百五十箇の徴兵管區は
皆は今面白き報を携へて倫敦より巴里に

其意の欲するに従ひ思ふ儘に其職を繼
續すべし露國に常識の曙光現るに至る
までは何物も露國を抑制し得るものある
を窺見する能はず而も露國に此曙光現
れんとせば到底則すべからざる事なり然
れども此曙光現るに其機軸に値すべき日
本その欲望を透達するに至らば果して大
露國人民正當の希望に其満足を得べき
るが如きものあるや是れ露國の爲めに謀りて
べき問題なり我等は露國の爲めに謀りて
露國の重ねてツバツツ提督の如き士に誤
らるゝも無からんものと希望に堪へず提
督は今面白き報を携へて倫敦より巴里に

手帳の月十一時

タイムスの日露 戦争批評 (百八十四)

クロバトキンの召還

三月十五日の日付を有する露帝の命令に
依りてクロバトキン將軍は絶東に於ける
露國陸海軍總指揮官たる其官職を免ぜら
れりテイツク將軍の後任に擧げられ
たり露國總指揮官召還内定の風説は稍や
暫く前より傳へられたる所にして當時の
豫想はニコラス ニコライエウツチ太
公之が後任なるべしと云ふにありたり然
るも實際に至り此豫定遂に改廢されリテ
イツク委託するに其危険なる位置より
露國軍隊の残部を脱出せしむる——彼
もし能ふべしとせば——の任を以てせら
れたり何れにするも一時の職任たるに過
ぎざるべし

世界を通じての感情はクロバトキン將軍
然れども大國民の間に戦争行はれ主權者
に同情を表し戦争一年間の重荷と熾熱と
に堪へたる其忠實なる臣隷に對し露國皇
帝王者の度量を示す能はざりしを遺憾と
するにあり簡人としてクロバトキンは常
に頗る人望ある人なり此戦争に於ける露
國の師名に同情を表する能はざる人ど唯
果して信頼するに堪へたる指揮者なりし

其意の欲するに従ひ思ふ儘に其職を繼
續すべし露國に常識の曙光現るに至る
までは何物も露國を抑制し得るものある
を窺見する能はず而も露國に此曙光現
れんとせば到底則すべからざる事なり然
れども此曙光現るに其機軸に値すべき日
本その欲望を透達するに至らば果して大
露國人民正當の希望に其満足を得べき
るが如きものあるや是れ露國の爲めに謀りて
べき問題なり我等は露國の爲めに謀りて
露國の重ねてツバツツ提督の如き士に誤
らるゝも無からんものと希望に堪へず提
督は今面白き報を携へて倫敦より巴里に

クロバトキンに與するものは曰ふ彼は事
々に妨害を受けたるものなり其過誤は彼
の過誤にあらざるして皆他人の過誤なり將
軍は皇帝の意志を奉ずる受動的代理人に
過ぎざりしなりと我等また露帝地圖を被
さて頻に之に研究を加へ諸軍隊の位置み
な綿密に之を記號し居たりとの説を聞き
遊撃、偵察或は總行動と雖も皆皇帝の速
斷聖旨に出でたる所なるを信ぜしめられ
んとせり従つて人或は疑ふものあらん苟
も將軍の後にあるもの何すれぞ斯くの如
き指令に従ひ其不可なりとする行動に其

然れども之と同時に我等また全然相違せる説を聞かざるにあらずアレキシーンは現に聊も躊躇するの狀なくしてクロバトキン恰も其意の欲する所を行へりと云ひクロバトキンの行動または不動その高等部よりの指令に出でたりとの説は聖彼得堡に於てすら極力否認されたり而して將軍自身は即ち如何と云ふに彼は終始よく其沈黙を守り居れり將來あるひは彼幾許の點まで妨害され幾許の點まで其自由手腕を許されたるや之を明にするの時あらん何れにするも彼の行動彼の發意に出でたるにあらざるを證明せんと欲せば必ず之が事實を陳示せざるべからざるなり露國の將軍と雖も其職を保ちながらして六千哩遠隔の地にあるオリソツクカ

クロバトキンの召還(下)

我等にして若し單に我等の姓に存するのみを以て我々の實のみに取りクロバトキン露帝の指命にのみ従ひたるものなりとの説の如き其證據得らるゝまで暫く之を排斥するに於ては此戦爭中指揮官としてクロバトキンの行ひたる所は決して彼をして不死の

を有したるが爲め其業をして比較的容易ならしむるゝを得たり。黒溝壩に於てはグリベンベルグ七箇師團の兵を率ゐて獨立に其戰鬪を行ひ遂に擊破さるゝに至る。まで彼總指揮官は二箇軍を有して拱手し居たり。高等指揮の發動力と意志とは何れの行動にも其存在を示したるゝ。なほ最後には即ち奉天の戰なり。此戰に於てクロバトキンは唯々として専ら其敵の爲す所に従へり。彼は時機過きに過ぐるに至るまで敵の本攻撃何れに下るべきやを探るゝ。能はざりし彼滿天の激波を塞げんとして勇敢なる行動を爲せるは後の歴史家充分に之を認むるゝ。あるべし。雖も彼は終始時機に後るゝ。と少なくも一日なりし。

クロバトキンの上に漑がれたる顔辭には
我等戦争の初期に於て既に之に同ずるを
離んじたり蓋し彼曾て之を償すべきものを
爲したるものと云ふは明にして當時行は
れたる世評は道理に基きたるにわらず徒
らに人を其英雄崇拜の天性に誘致せんと
する神經性文士の作成し出したるもの
なるものと明なるを以てなりし人の英雄崇
拜に辯ある常に其神を索めて止まず往々
にして其最も價值あるものと薄き人を以て

る結果は常に各人に懊惱を與ふるものと少
なからず何となれば輿論は之に其信を存
せし盤石を失ひ滿地は箔粉の脱落せる諸
偶像の破片を以て掩はるゝに至るを以て
なり我等は又這の事實を認めざるべから
ず帝王既に親ら戰馬に其兵を指揮せざる
今日將軍輿望を負うて高地位に達せば自
ら本國に在留して平和を愛好する王者の
人望を壓するに至るものとあるを免れず
是を以てか戰爭に依りて將軍漸く其名を
盡く之を利用するを得たるのみならず又
の一人なり其箇人の氣力と其倦まざる干渉
とを以て其軍隊内に存する巨多の缺陷を
補修するは即ち彼の得意とする所なるべ
しと雖も其些末に拘々するの習性を爲し
て遂に彼に戰場を統理するの能力を失は
しめたるなり彼は一參謀長たりしものに
して今も尚ほ參謀長たり露國の缺ける唯
一のものは即ちスコベレフの天才なり之
にあらば勇敢なる大軍隊の好戰的特性